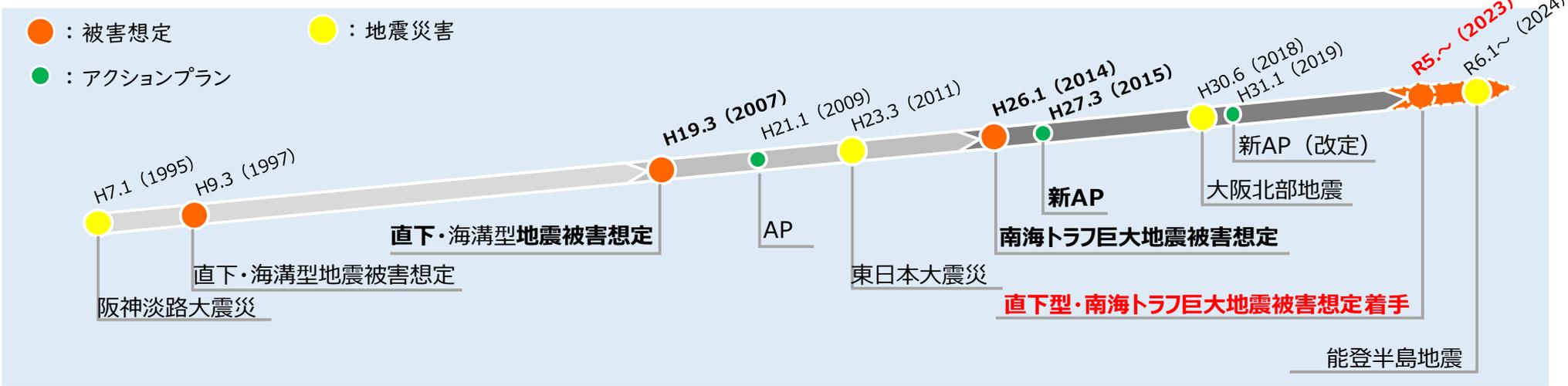


# 被害想定の見直しと 次期地震防災アクションプランについて

危機管理室防災企画課

# 被害想定の見直しと次期地震防災アクションプランについて

## ▶被害想定・アクションプランに関するこれまでの経緯



### ○直近の被害想定公表

- ・上町断層帯等の直下型地震 (平成18年度)
- ・南海トラフ巨大地震 (平成25年度)

### ○【新・大阪府地震防災アクションプラン】(現行)の策定

- ・ H25の被害想定を基礎データとし、平成27年から令和6年度までの10年間の地震・津波防災対策をとりまとめ ※ 令和8年度まで延長 (能登半島地震の影響)

## ▶被害想定の見直しと次期アクションプランの策定 (R5年度~)

- 直近の被害想定公表以降、10年以上が経過し、「新たな知見や国の検討」、「社会情勢の変化」、「地震津波対策の進捗」を踏まえ、令和5年度より学識経験者で構成する検討部会を設置し、被害想定の見直しに着手
- 見直した被害想定に基づき、令和8年度中に次期アクションプラン(令和9年度~)を策定。



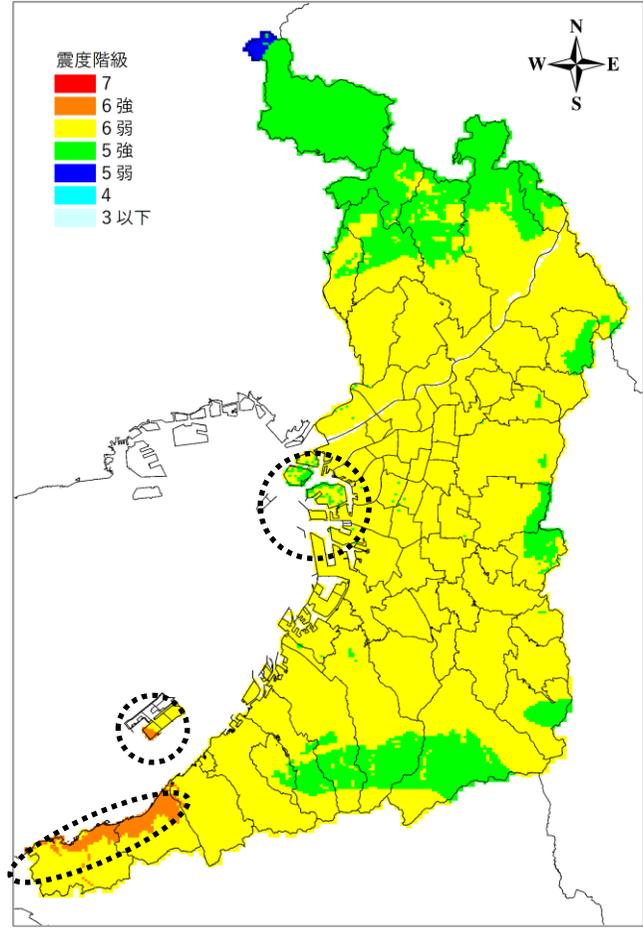
○検討部会 (R5.6.12設置)の開催状況

- 令和5年6月28日 (第1回検討部会)  
主な議題 現在公表の被害想定等の確認
- 令和5年12月20日 (第2回検討部会)  
主な議題 地震動設定手法の決定
- 令和6年11月7日 (第3回検討部会)  
主な議題 津波浸水想定の見直し
- 令和7年3月17日 (第4回検討部会)  
主な議題 被害想定手法
- 令和7年12月19日 (第5回検討部会)  
主な議題 津波浸水想定、地震動・液状化
- 令和8年3月18日 (第6回検討部会)  
主な議題 被害想定算定の見直し

地表震度の予測結果

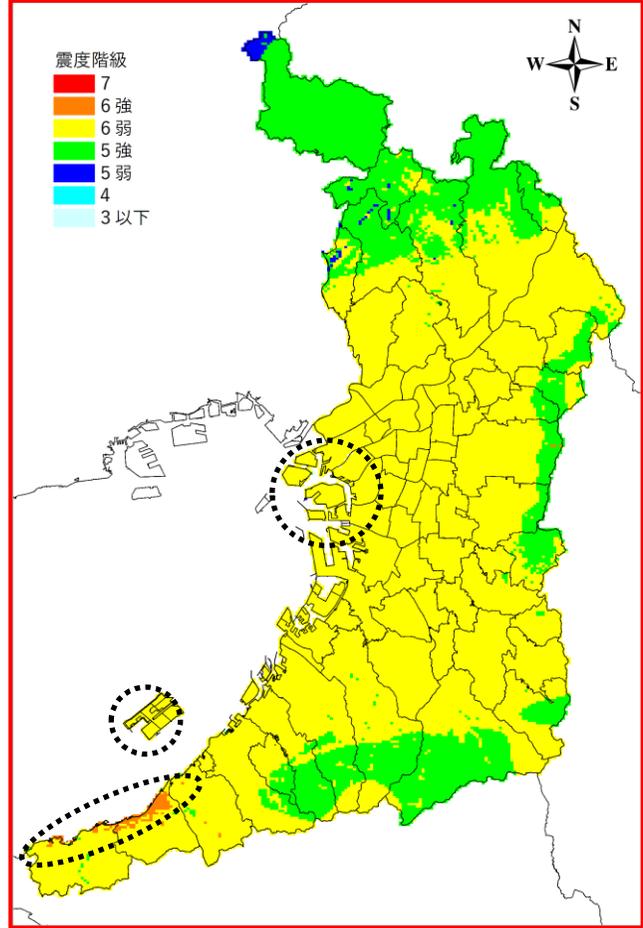
H26想定（南海トラフ）時との比較

H25想定  
（南海トラフ）



H25想定（南海トラフ）の地表震度

今想定  
（南海トラフ）

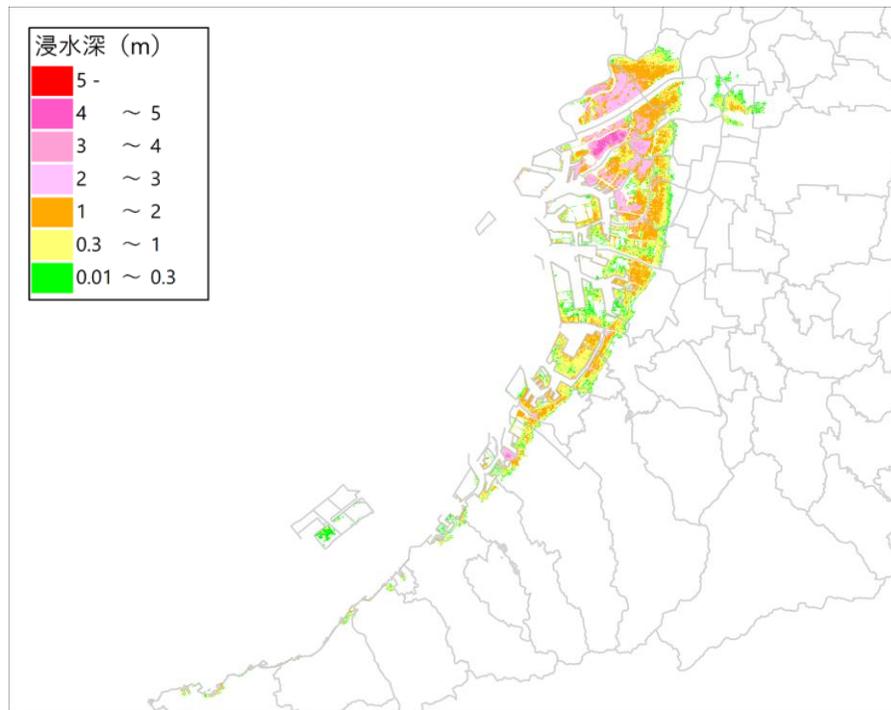


今想定（南海トラフ）の地表震度

【浸水深を考慮した浸水面積の変化（府全域）】

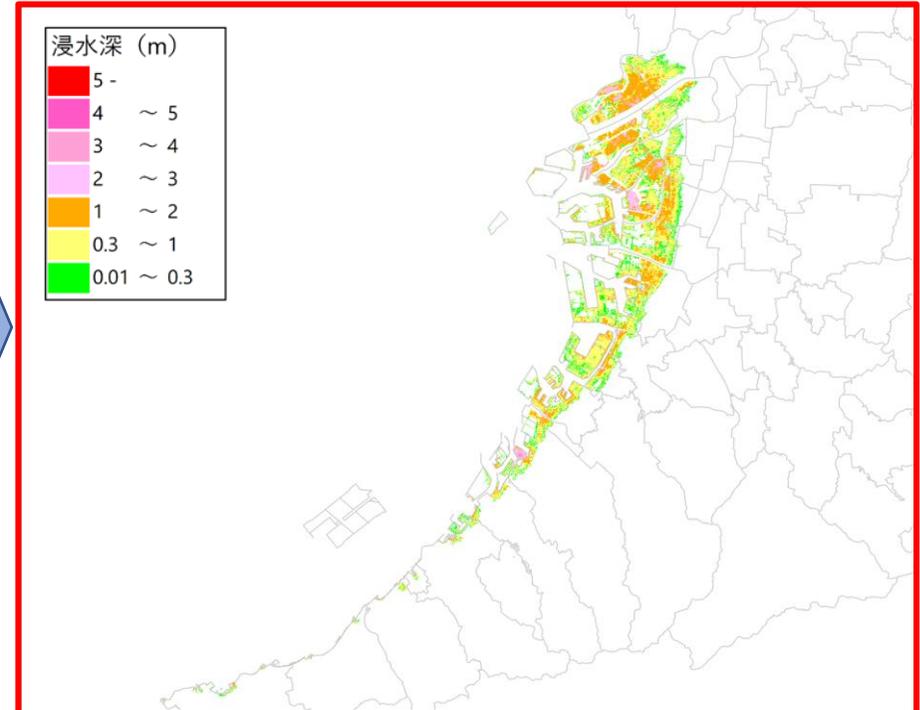
	H25津波浸水想定		R7津波浸水想定	
①全浸水面積	: 11,072ha	⇒	9,580ha	(13%減)
②浸水深0.3m以上の浸水面積	: 9,592ha	⇒	7,872ha	(18%減)
③浸水深1.0m以上の浸水面積	: 5,625ha	⇒	3,332ha	(41%減)
④浸水深2.0m以上の浸水面積	: 1,950ha	⇒	513ha	(74%減)
⑤浸水深4.0m以上の浸水面積	: 119ha	⇒	5ha	(95%減)

浸水面積：11,072ha



H25津波浸水想定区域

浸水面積：9,580ha



(今回) 津波浸水想定区域

# 参考：津波浸水想定（南海トラフ地震）について

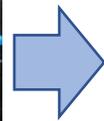
## 浸水想定イメージ（H25津波浸水想定との比較）

### ●大阪駅前

・H25想定（イメージ）  
浸水深：1m以上



・R7想定（イメージ）  
浸水深：10cm程度



津波による浸水については、30cm以上の浸水で人が巻き込まれるとされており、前回想定の浸水深1.0m以上では、垂直避難等の行動をとらなかった場合、ほぼ助からない状況（死亡率100%）。これらの浸水深が1.0m以下に低減されれば、逃げ遅れた人も助かる可能性が高くなる。⇒1.0m以上の浸水：前回調査5,625ha → 今回調査3,332ha 約41%減少

### ●大阪市街地（淀川区）

・H25想定（イメージ）  
浸水深：2m以上

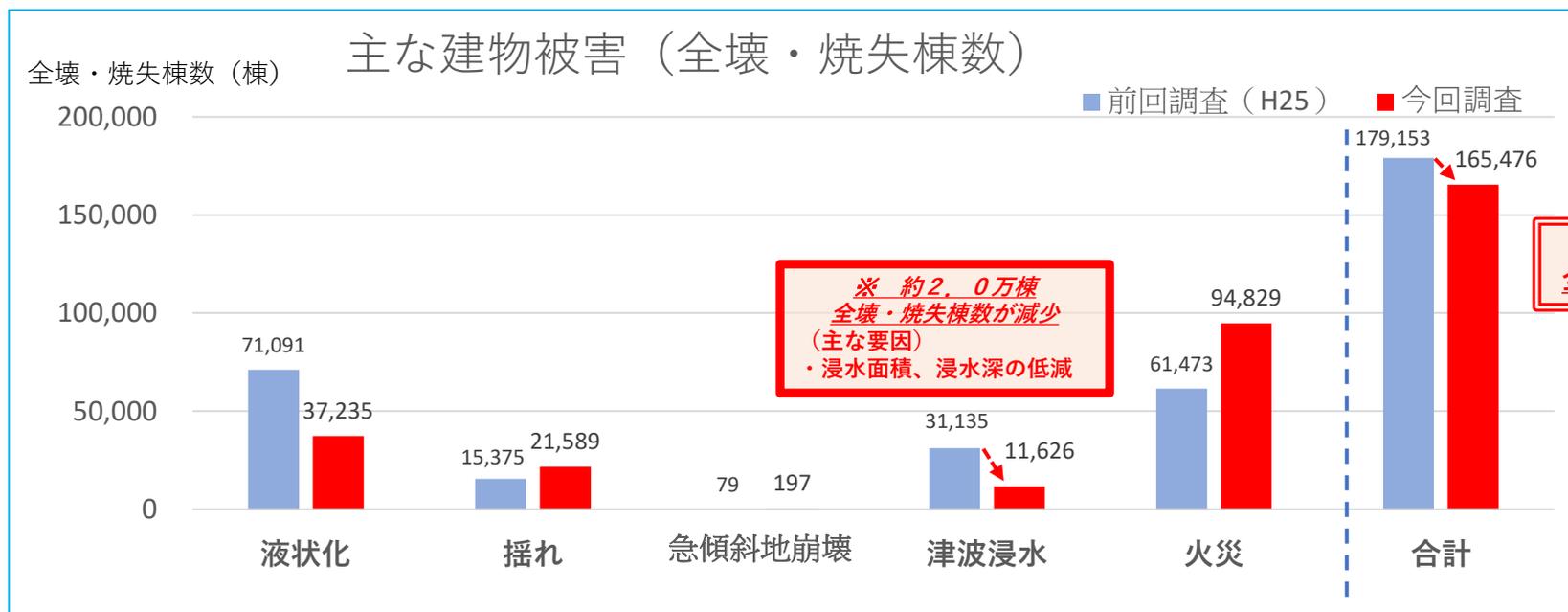
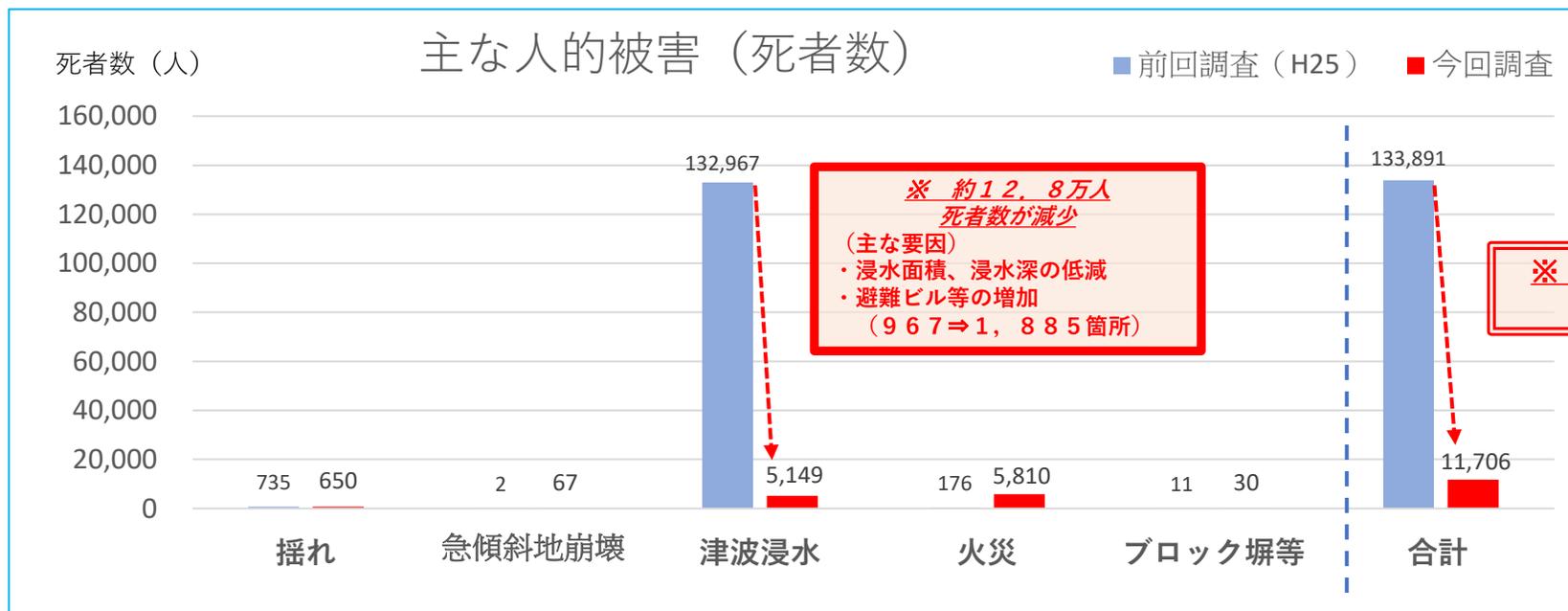


・R7想定（イメージ）  
浸水深：1m程度



前回想定の浸水深2.0m以上では、木造建物の約45%が全壊する可能性が高く、垂直避難等の行動をとったとしても、建物ごと流されてしまい、助からない可能性が高い状況。これらの浸水深が2.0m以下に低減されれば、垂直避難を行うことで助かる可能性が高くなる。⇒2.0m以上の浸水：前回調査1,950ha → 今回調査513ha 約74%減少

# 参考：被害想定の主な算定結果（南海トラフ地震）について

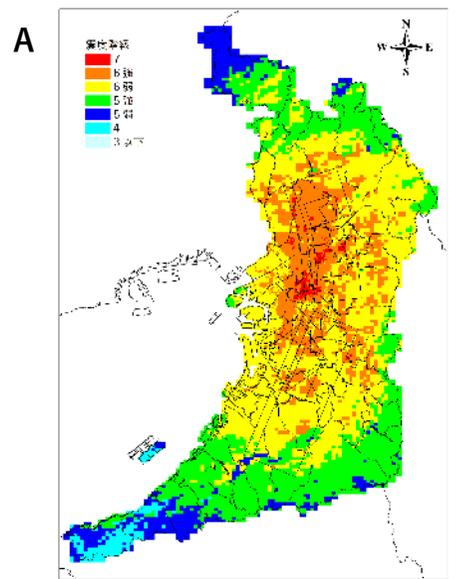


# 参考：直下型地震における震度分布比較（平成19年調査⇒今回想定）

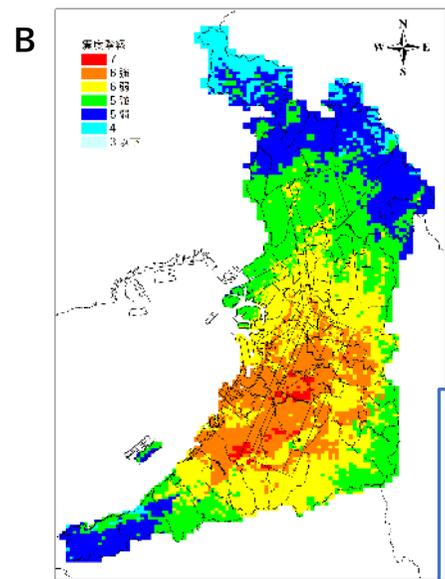
## 上町断層帯

H19想定  
(直下)

平成19年 (A:北側)



平成19年 (B:南側)

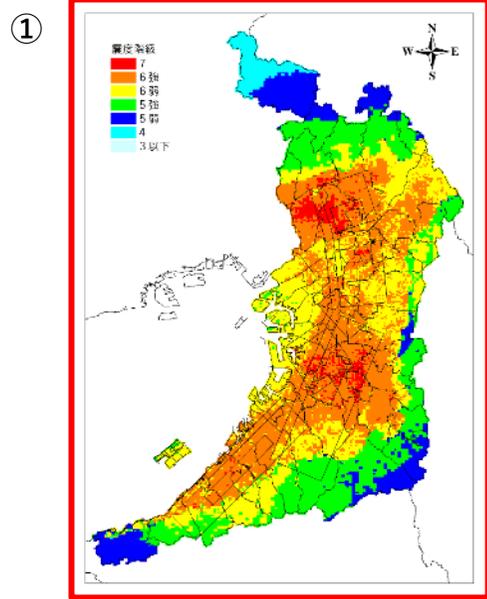


※ 地表面の震度分布が大きくなる主な要因  
(第5回部会での審議内容)

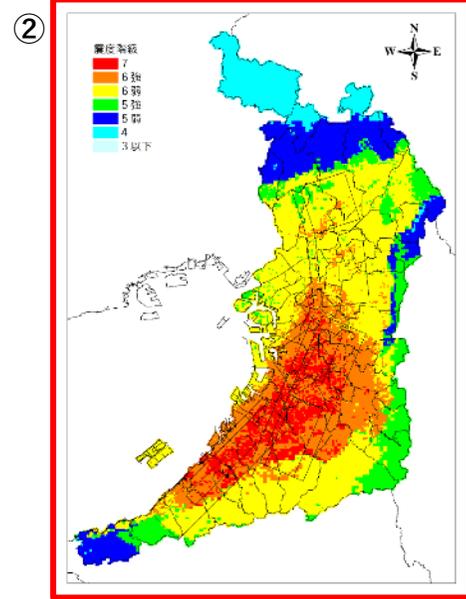
- ・新たに「大阪湾南東岸断層」を追加
- ・地盤モデルの更新による地震動が増幅する層の見直し

今回想定  
(直下)

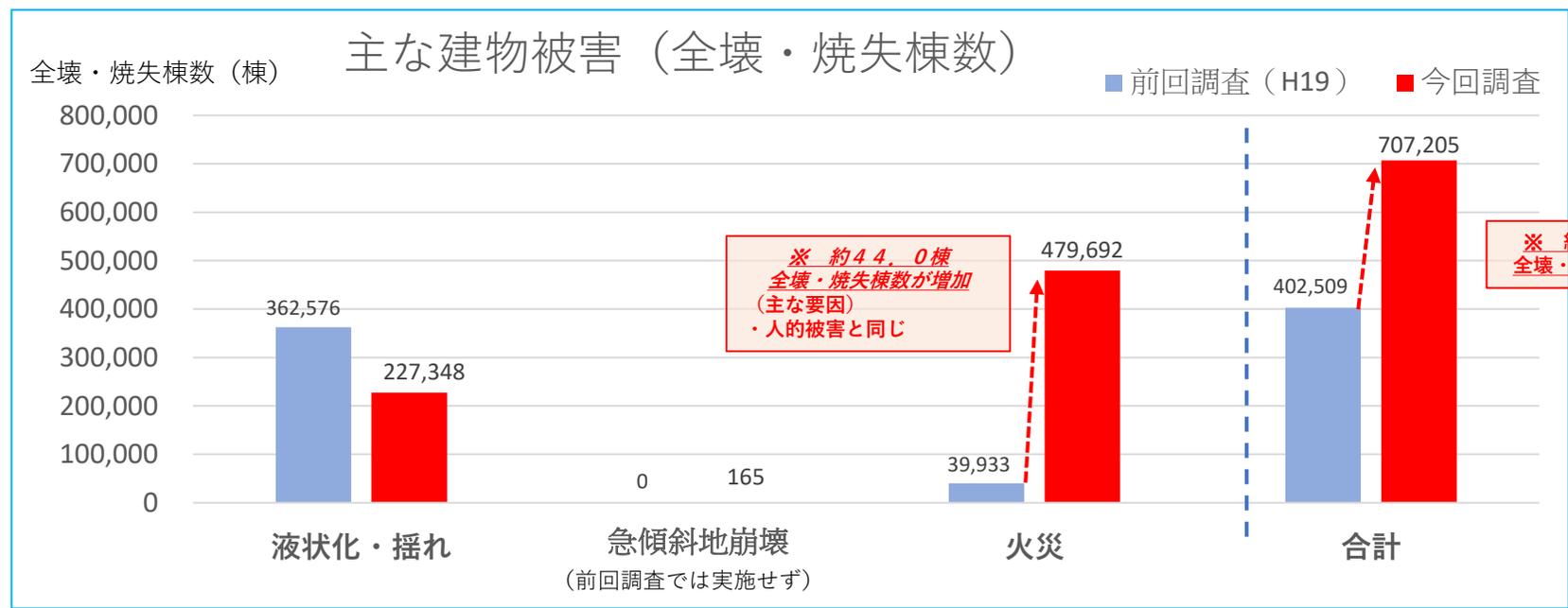
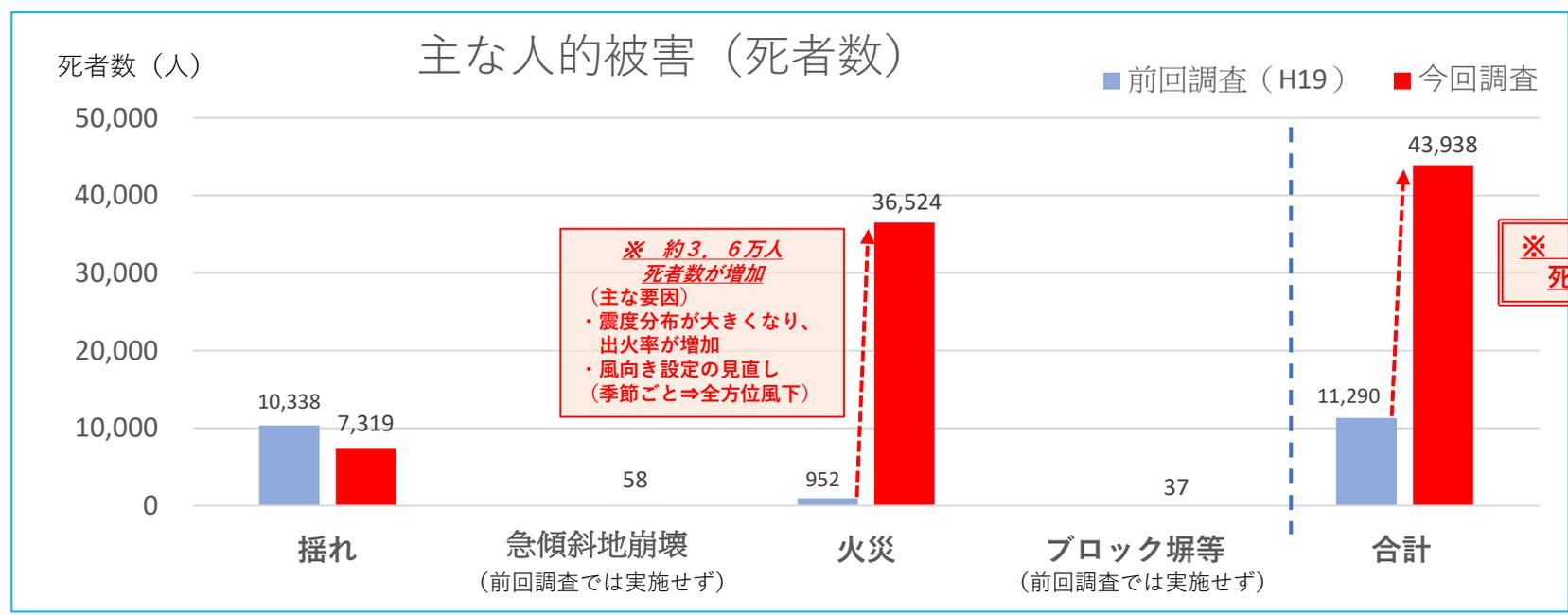
今回想定 (①:北側)



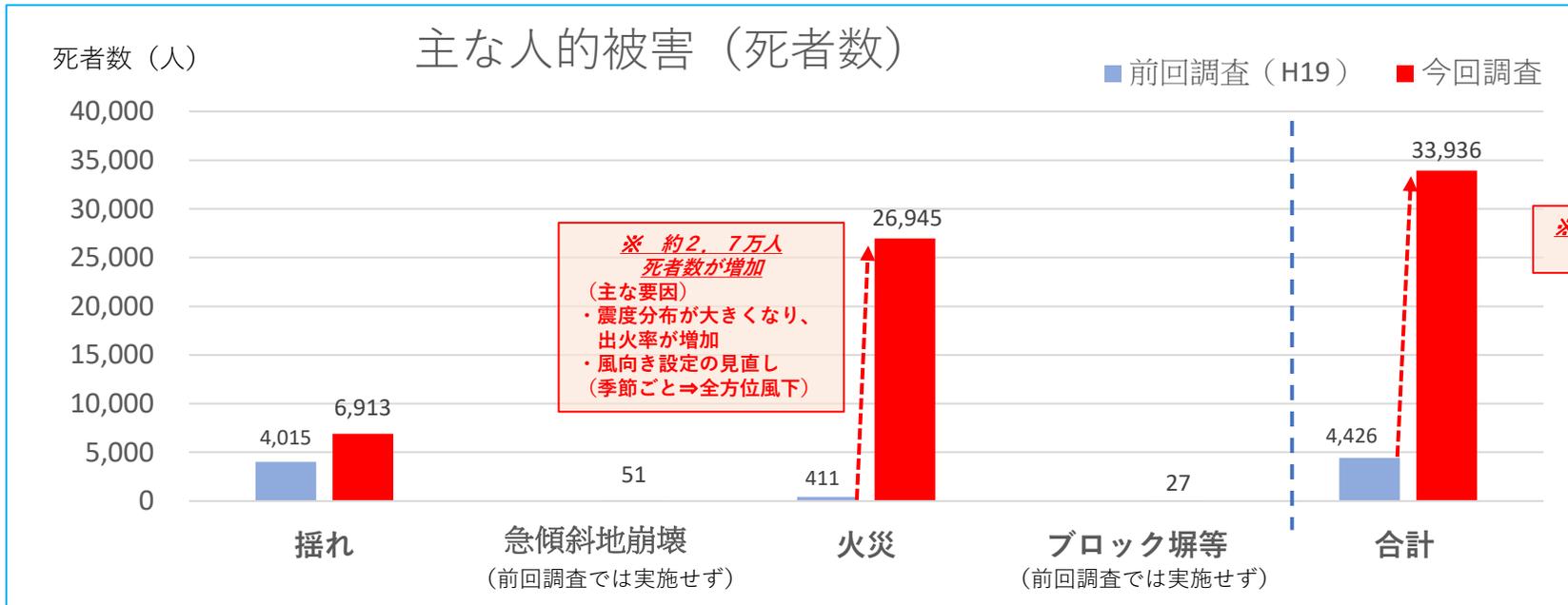
今回想定 (②:南側)



# 参考：被害想定の主な算定結果（上町断層帯①：直下型地震）について



# 参考：被害想定の主な算定結果（上町断層帯②：直下型地震）について





- これまでに審議した被害想定を踏まえた【主な防災・減災対策】について、「災害シナリオ（詳細版）の検討」にまとめております。※ 下記リンク先の第5回部会（資料5-1）および第6回部会（資料3-1）をご参照ください。  
 （地震津波災害対策等検討部会URL：[https://www.pref.osaka.lg.jp/o020080/kikikanri/keikaku\\_higaisoutei/r5bukai.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/o020080/kikikanri/keikaku_higaisoutei/r5bukai.html)）
- 各部局におかれましては、次期アクションプランに向けた対策検討の際に、参考資料としてご活用ください。

### （参考事例：地震火災による災害シナリオ）

➤ 地震に伴う火災により起こる被害様相と主な防災・減災対策

被害想定項目	時間	被害様相（対策なしの場合）	主な防災・減災対策
地震火災	直後	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 木造密集市街地などを中心に、同時多発火災が発生</li> <li>➤ 消防力が不足し、延焼火災</li> <li>➤ 火災旋風が発生する可能性</li> <li>➤ 避難経路が閉塞し、逃げまどいによる犠牲者の発生</li> <li>➤ 歴史的な街並みや指定文化財等の建造物の焼失</li> <li>➤ 太陽光発電システムが損傷し、出火要因</li> <li>➤ 津波警報等が発表された地域では、津波避難のために住民による初期消火が困難、消防機関による消火活動が困難</li> </ul>	<b>【自助・共助】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 感震ブレーカーの設置</li> <li>➤ 消火資機材等の準備、消火訓練への参加</li> <li>➤ 不燃化対策</li> <li>➤ 家具転倒防止器具の設置促進</li> <li>➤ 防災グッズの備え</li> <li>➤ 自主防災組織の強化</li> <li>➤ 防災訓練・防災パトロールの実施</li> </ul> <b>【公助】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 木造密集市街地の解消</li> <li>➤ 延焼遮断帯等の整備</li> <li>➤ 避難路等の整備</li> <li>➤ 消防水利・消防機器の充実強化</li> <li>➤ 住民への火災予防等の普及・啓発</li> <li>➤ 地域防災情報の充実（危険性の見える化等）</li> </ul>
	1日後	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大規模な火災により多くの住宅が焼失</li> </ul>	
	数日後	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 復電による通電火災</li> </ul>	